

## バスラ日誌（4月17日）

- 1 最近特に多くなってきているが、ここバスラでもロケット弾攻撃を受け、そのような環境にすることを強く意識せずとも、脅威に対して敏感になっていると感じる。昨日、[ ]が書かれたように「ドアの閉まる音」(着弾音に非常に似ている)にも反応するようになる。戦力回復が終わり、そのような場所に帰っていくにもかかわらず、私も[ ]と同じように「我が家に帰ったような感覚」を感じた。安全なキャンプ・バージニアにいるよりも、バスラに帰りたかった。そして、これは私だけではなかった。[ ]が戦力回復から帰ってきた時、居室コンテナハウスの中で私に「なんか帰ってきて、ホッとしました。」と話したのを覚えている。また、これは日本人だけが感じるわけでもないようだ。戦力回復から帰ってきた直後、J-9の仲間と雑談をしている時、「バスラに帰ってきてどうか」と聞かれたので、「ちょっとおかしいと思うだろうけど、我が家に帰ったような感覚だ」と答えると、[ ]が「自分もそう感じたし、そういう人間はたくさんいる。」と言っていた。それはなぜだろう。私は「信頼する仲間たちがいて、そこに自分の居場所があるから」帰りたいたいと感じるのではないかと思う。実際、[ ]は、帰ってきたことをすごく喜んでくれた(人数が増えて、業務が楽になるからか?)。また、MND(SE)のJ-9のみんなも温かく迎えてくれた(握手をして「良い休暇だったかい」と聞くのが定番)。「自分が存在する価値を自分自身で確認でき、かつそれを認めてくれる仲間達がいる場所(=自分の「居場所」がある所)に帰りたかった」のではないかと今は感じている。今後も任務達成のため、その信頼する仲間達とともに頑張っていきたい。 [ ]
- 2 人数が増えたから喜んだんじゃないよ。さあ、皆で(日本隊全員、多国籍軍、現地の方)頑張ろう！ 室長、[ ]のみなさんは、予定通りバスラを発ち、昼過ぎにはサマワに到着されたと連絡を受けた。こちらでは、各部長等と多くの会談を実施され、有意義に過ごしていただいたのではないかと思っている。高機動車整備も英軍整備工場を借りることができ、予定よりも早く終了した。 [ ]
- 3 本日快晴、午後から風強し。バスラ4名、極めて健康。 [ ]